



瓦を降ろした様子

くの参拝者が行き来するためにも不可欠で後世に残していかななくてはならない建物であることから、このたびの改修となりました。そこで、本年二月上旬から始められた改修工事において、特に瓦の下への雨水の浸透が当初の予想以上に進行していることが判明しました。現在は高廊下全体に仮囲いがされ、瓦降ろし作業が順調に

行われています。

工期は本年十月末までとなりますが、その間万全の体制で工事を進めてまいります。工事中も常時、通行可能とする予定ですが、破損状況等によっては通行規制を行う場合もありますので、ご不便をおかけしますが、ご理解を賜りますようお願いいたします。

### 阿弥陀堂仮設素屋根解体工事の進捗状況(4月上旬)

2015 年末の御修復完了に向けて、仮設素屋根の解体工事が行われています。



参拝接待所前から見た素屋根



阿弥陀堂南東側から見た素屋根



# 御修復のあゆみ 〜 伝承された先達の願い 〜

## 高廊下の改修工事が始まる



修復前の高廊下

す。その中で、今回は参拝者の方々をお迎えする参拝接待所から御影堂北側に繋がる高廊下（御影堂に付帯した建物）の改修工事についてお伝えします。

戦時中、境内の廊下等は御影堂・阿弥陀堂への延焼による焼失を少しでも防ぐという対策のもと撤去されており、現

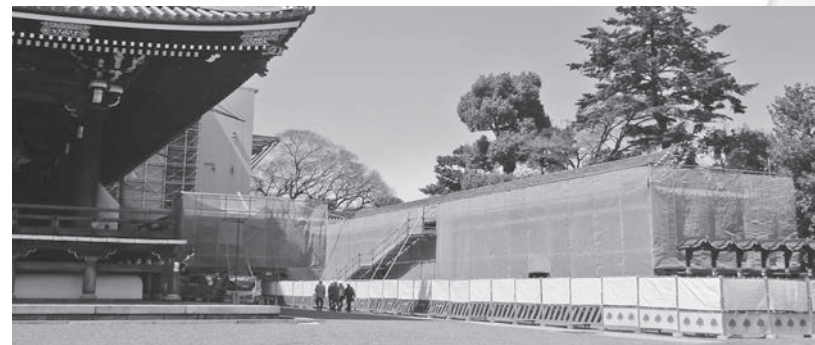
真宗本廟境内の中央に位置する御影堂と、北側に建てられている諸殿（大寝殿や白書院等）との間は、数本の廊下でつながっています

在の高廊下は戦後に復旧したものです。ただ、戦後間もなくの状況下では、経費の捻出が困難で、再建されないままとなっていました

た。一九四八（昭和二十三）年には蓮如上人四百五十回御遠忌法要を勤める計画（実際には翌年に厳修）がなされ、その準備作業の中で復旧工事が進められ、翌一九四九（昭和二十四）年に復元・再建されました。

しかし当時は、木材資源も全国的に割当制となっていた時期であり、この時期の建築は非常に経費を抑えて建設されたため、建物自体の老朽化が進んでおりました。

その結果屋根の歪み、瓦の損傷、軒先の不陸、木部の腐朽などの激しい傷みが確認され、白洲においても目に付く箇所であるため早々に対応する必要がありますことや、さらには使用頻度も高く、多



仮囲いされた高廊下